

北海道若者活躍プロジェクト地域教育ワーキンググループ 記録

日時 令和2年9月16日(水) 14:30~16:30

場所 ZOOMによる

次第及び出席者は別紙会議資料を参照

【議題】

1. 地域PBL発表交流会の実施について

室蘭工大(永野副学長)より資料1に基づき説明があり、「優秀なグループに表彰状及び景品としてボルタ人形を贈呈したい。今回は室蘭工大にて準備するが、令和3年度以降は毎年、各校が持ち回りで負担することとしたい。」旨提案があり、異議なく了承された。

(合意事項)

- ・表彰式においては、昨年度と同様に優秀なグループに表彰状及び景品としてボルタ人形を贈呈する。今回は室蘭工大にて準備するが、令和3年度以降は毎年、各校が持ち回りで負担することとする。
- ・メインセッション時の全体発表の時間は、5分以内に変更する。

(質疑等)

意見：メインセッション時の全体発表の時間は、各校8分では長いと思う。5分以内で良いのではないか。(函館高専/小林副校長)

意見：学生のメリットとして、上位チームは北海道新聞等マスコミに取材してもらえる特典を与えてはどうか。(パナソニックITS/佐藤課長)

回答：昨年度は、読売新聞の取材を受けた。(室蘭工大/永野副学長)

意見：SNSを活用してはどうか。(NSソリューション/馬場取締役)

回答：検討する。(室蘭工大/永野副学長)

意見：各校には、NoMapsのエデュケーショナルパートナーに参画いただきたい。(室蘭工大/永野副学長)

2. 道内就職優遇制度の現状と今後について

室蘭工大(永野副学長)より資料1に基づき説明があった。

(質疑等)

質問：認知度を向上させるための方策はどうしているか。(パナソニックITS/佐藤課長)

回答：室蘭工大においては、学生便覧への掲載、1 学年及び 3 学年の授業で制度周知、就職相談コーナーで掲示を行っている。（室蘭工大/永野副学長）

意見：地域 PBL 発表交流会で PR してはどうか。HP で企業紹介の機会を設けてはどうか。（パナソニック ITS/佐藤課長）

意見：就職試験を受ける者を増やす方策として、内定辞退の制限を無くしてはどうか。（北洋銀行/熊谷管理役）

意見：地域の自然や歴史を知って、地域に就職するのだろうか。（ASCe/後藤代表取締役）

回答：大学では 126 単位のうち 10 単位が本プログラムの修了要件であり、技術的な授業も受けている。また、授業科目として、インターンシップも行っている。（室蘭工大/永野副学長）

意見：北海道科学大では、地域志向人材育成プログラムを全学で実施できていないが、道内出身者が 95%であり、道内就職の意識が高い学生に対して魅力的な企業と接点を持つよう取り組んでいる。このようなイベント参加も修了要件に加えることを検討願いたい。（北海道科学大/田中課長）

意見：企業が学生に対して、修了証が欲しいと言ってもらえると良いと思う。道内の有力企業が本制度を理解してもらうことが大事ではないか。（苫小牧高専/須田センター長）

質問：学生がメリットを感じない理由は何か。（NS リューション/馬場取締役）

回答：制度を使わなくても就職できているから。（室蘭工大/那須教授）

意見：道内に働く先がないと考える学生に対して、アピールしたい企業をマッチングさせることが企業が行うべきことと思う。（NS リューション/馬場取締役）

回答：学生アンケートの結果から、制度としての魅力はあるとの回答が多いが、アンケート結果と学生の行動はかけ離れているのが現実で、また、学生の行動は移ろいやすい。（室蘭工大/那須教授）

意見：学生と企業が winwin になる制度にしないといけない。制度の魅力を感じさせる努力が足りないのではないか。例えば、インターンシップで企業を知ってもらうことができるので、インターンシップへの参加数を修了要件に入れてはどうか。（ASCe/後藤代表取締役）

意見：インターンシップをオンラインで実施した例として、午前にも 1 件、午後にも 1 件行った者がいた。移動を伴わないため、オンラインをうまく活用できればより多くの企業と学生をマッチングさせることができる。（函館高専/小林副校長）

【報告】

1. 地域志向人材育成プログラムの効果について

室蘭工大（永野副学長）より資料 1 に基づき説明があった。

【その他】

質問：道内就職率の結果はどうだったか。(北電/平池部長)

回答：室蘭工大の令和2年3月卒業者は、38%とCOC+事業期間で最も低い結果となった。要因として①公務員就職者が少なかったこと。②道内企業への学校推薦が少なかったこと。③就職希望者数が多かったことと分析している。なお、COC+全体では、44%であり、北海道科学大及び旭川高専が目標を達成しているが、その他の学校は目標を達成していない。COC+参加校のアンケート結果から、「道内に働ける企業がない。」と考える学生が多いことがわかっている。道内には製造業の働き口が全国割合に比べ少なく、学生は研究開発等やりたい仕事が見つからないと道外へ転出している。基本的には産業構造の問題であり、工科系学生の雇用を創る取組みに力を入れないと道外転出の問題は解決しない。(室蘭工大/那須教授)

質問：コロナ禍で学生の就職状況はどうか。(北洋銀行/熊谷管理役)

回答：2極化している。①2月～3月に活動を開始した学生と②乗り遅れた学生で差が出ている。コロナ禍で地域に学生の目が向いているかを注目しているが、把握できていない。(室蘭工大/永野副学長)

回答：函館高専では、学校推薦が主であり、オンラインによる面接となっているが、例年どおり。ただ、オンラインの流れに出遅れた地元企業がある。(函館高専/小林副学長)

回答：苫小牧高専では、進学率が高くなる可能性があるが、その他は函館と同様。(苫小牧高専/須田センター長)

回答：科学大では、出遅れた学生がいるものの、例年どおり。(科学大/田中課長)

質問：本WGのゴールは何か。(北洋銀行/熊谷管理役)

回答：答えはすぐに出ないと考える。課題と対策を考えて着手するための戦略を立てるのがゴールになると思う。(室蘭工大/那須教授)

以上